

地域の高齢化

有田市立病院 中 啓吾(和歌山県)

現在、私が勤務している有田市立病院は、和歌山県の中部に位置する人口約三万人あまり、面積三十六・九㎢の有田市にあります。紀伊水道に面し、中央を流れる有田川沿いに平野が形成され、市街地及び田畑が広がっています。大阪から有田市までは電車に乗って約二時間程度、近隣でとれるさまざまな農作物の中でも、特に甘い蜜柑は有名で味には定評があります。私は、この病院に赴任してまだ一年あまりですが、ここ数年間に当院でも勤務医数の減少が進み、十名いた内科系医師は、現在内科四名、循環器科三名の七名での診療を行っています。当院では生活習慣病外来を開設しており、糖尿病、脂質異常、高血圧を中心とした診療に力を入れ、動脈硬化疾患予防につなげてゆきたいとがん

ばっています。生活習慣病こそは土地の食生活、日常生活と密接に関連しているため地域性に注目することが大切であると思われまます。各季節ごとに変化する食事、仕事(特に農作業)などは、その生活環境にかなり影響を受けていると思われるからです。慢性疾患であるため、すぐには結果に現れなくても少しずつよい方向に向けてゆき最終的に脳梗塞、心筋梗塞発症が減らしてゆければと願っています。

さて、今日六十五歳以上の人口が全国的にも二〇%以上と高齢化社会となり、有田市では六十五歳以上人口は既に二三%、七十五歳以上の方も一割以上もおられます。健康長寿ということも言われ、当地方では九十歳を超えても比較的元気な方が多い印象ではあります。そうは言っ

ても高齢者は年齢が進むとともに多くの疾患をかかえ、病態は若年者とは大きく異なっています。微熱があるとか、食欲がない、痩せてきた、とかのささいな症状で受診されても、まったく問題がないことは少なく、多くは複数の疾病が発見され重篤な病状をはらんでいることもまれではありません。

基礎には認知障害や腰痛などを伴うことは日常であり、特に七十五歳以上の後期高齢者から著増する骨折、排尿障害、褥瘡などの病態を持つ患者さんへの対応が多くなっているのが現実であります。骨折においては整形外科とリハビリテーションでの加療は年々忙しくなり、排尿障害に対しての泌尿器科診療、また褥瘡や全身的な皮膚症状の増加に対する皮膚科対応など、これらの専門科は地域の高齢者加療に必須な診療科であることが改めて実感されています。高齢者の増加により病気・原因はさまざまでも治療と同時に介護やケアの重要性が増し、それに対応する体制も年々改善が迫られています。高齢者でQOL(生活の質)を阻害する重要な疾患は、がん、脳卒中、心臓病、認知症とされますが、とりわけ脳卒中は救命されても後遺症を残すことがあり、ねたきりとなるケースも少なくありません。廃

用、褥瘡や栄養障害とともに、やはり最も大変なのは食事などが誤って気管の中に流れ込む誤嚥から肺炎を併発する誤嚥肺炎であり、こういった病態から入院を繰り返す患者さんも特に目立ちます。嚥下(飲み込み)評価、嚥下訓練リハビリテーションの重要性が増し、自宅に帰っていただくための努力をつづけていきますが、残念ながら管を用いた流動食形態(経管栄養)が必要となり、経栄養や最終的には胃瘻造設(お腹に穴を開けて経路を造り流動食を行う)にまで至り管理するケースが年々増加しています。

超高齢化社会がいま身近なものとなりつつある今日、地域において高齢化はますます顕著となってきました。完治しにくい慢性疾患が多くなってくる高齢者の医療・ケアは、やはり地域に密着し基盤をおいています。交通費もかからず生活圏の中で治療を続けてゆけるメリットは小さくないからであります。

今後、高齢者の予防医療、救急医療、在宅医療からターミナルケアまでを一貫して診てゆく「老年医学」がさらなる高齢化を迎える地域医療にとってますます重要であり、必要となつていきます。